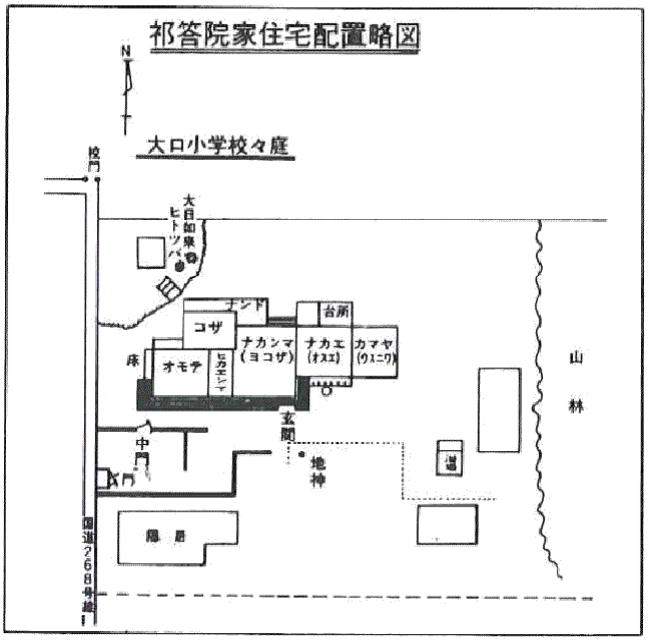
祁答院家住宅　おもて　なかえ　うすにわ　附 表門

【所　在　地】伊佐市大口里 1855
【種　　別】国指定有形文化財（建造物）
【指定年月日】昭和 50 年 6 月 23 日

祁答院家住宅は，伊佐市麓地区内にあり，江戸時代中期に建てられたと推定され，早い時期の武家住宅（鹿児島藩郷士住宅）である。数少ない郷士住宅のうちでもっとも貴重なものである。同家系図によると，祁答院氏が大口に移住したのは，承応２（1653）年と記す。現在の住宅はその後，18 世紀前半に建築されたものと推測できる。

屋根の部分等が一部改変されて，座敷をつづき間にしたり母屋は改造がなされた。また，門は以前，茅葺きであったようだが現在は瓦葺きに変わっているものの門扉等は創建当時のままである。また，石垣等も古い部分を残している。

麓に居住した郷士の多くは，日常は農耕にも従事していたといわれているが，祁答院家住宅も農耕に対応した部分と接客を重視した武家の部分とから構成され，当時の地方武士（郷士）の生活を知る上でも貴重な建造物である。